Why not Mac?

vol.8

Macを導入しやすい企業とは？

<PART: I >

“Mac導入成功の秘訣は企業カルチャーにあり”

ユーザ視点でのメリット　iOS連携等ビジネスの文脈で語る

仕事にMacを自由に使い、安心、安全に使うことができる企業とは、どんな企業を想像するだろうか？世の中に刺激を与えるクリエイティブな作品を制作している会社か、それともイノベーティブなアプリやサービスを提供しているスタートアップ企業か。これまで企業でMacが選ばれている理由や、Macの優位性、セキュリティなどを伝えてきたが、実際にMacを導入している企業が何を大事にしているのかをお伝えしたい。

まず大前提として、Macというものは仕事を行うための道具である。その企業がビジネス目的を達成するために、必要な業務を従業員が遂行するために使うものだ。これまでの日本企業における業務システムやPCはWindowsを中心としたITシステムで構築されてきた。ITのコンシューマライゼーションが進み、クラウドサービスのビジネス利用が企業の現場で拡大している。そして、業務デバイスのモバイル化と共に、iOSデバイスが業務で使われる機会も増えた。クラウドサービスをモバイルアプリからアクセスして使うということは、もはや当たり前のことになった。

こうした背景もあり、業務システムがWindows中心である必要性が薄れており、従業員が使いやすいデバイスを自由に使える環境が求められている。働き方の多様化やテレワークの推進により、いつでもどこでも、手元のデバイスから業務に必要な情報にアクセスし、業務を遂行できることが、企業の競争力を高めることにもつながるのだ。

企業の情報システム担当は、こうした流れの対応を日々迫られている。業務デバイスのモバイル対応から、そのセキュリティ対策、クラウドサービスの利用拡大に伴う、ITシステムの再構築など、その対応範囲は幅広い。企業規模によっては、総務や人事の業務を兼務しているケースもあり、ビジネス活動を安定して行うためのIT環境を整備するための情報システム担当の責任範囲は広く、重大だ。話を聞いてみると情報システム担当としての仕事内容や役割に関しては、ほとんどの企業が同じである。クライアントPCの管理から、従業員からの問い合わせ対応のヘルプデスク、入退社に伴うアカウント管理等である。

こうした情報システム担当の現状を踏まえて、これまでに社内に存在しなかった新たなデバイスであるMac導入を推進していくことは、簡単な話ではない。iOSデバイスが社内に浸透したとはいえ、Appleデバイス管理の中でも、特にMacは長年社内のネットワークから切り離された環境で利用されていたのが現実にあり、その運用管理のノウハウが社内にある企業は珍しいほうだ。Mac導入を推進している企業の情報システム担当は、日々情報収集に勤しみ、小さな挑戦の中でトライアンドエラーを繰り返しながら、ノウハウを蓄積している。

では、Mac導入が進んでいる企業は何が違うのか？これまで社内でMacが必要とされる理由としては、クリエイティブソフトの操作を行うデザイナーやアプリ開発に必要なコーディングを行うエンジニア、マーケティング業務など、ある程度専門性の高い業務に従事する人が要望している。最近では、学生時代に使っていたPCがMacだったことを理由に、新入社員が自分が仕事をしやすいものを選ばせる、ということでMacが導入されているケースもある。自分が使うPCやモバイルデバイスが使い慣れたものであるということは、就職活動などの企業選択の上でも重要な要素となっている。企業の競争力を強化していくという視点でいえば、自分が使いやすいものが使える環境を整えることで、一人ひとりがより高いパフォーマンスを発揮できることになる。

こうした従業員に対するIT環境の整備は、従業員満足度（Employee Experience/EX）を高める上でも必要性が高まっている。この従業員満足度を高める上で、ITは一つのツールである。ここに掛け合わせる要素として働き方の多様性に対応する制度の整備も必要だ。そして、従業員満足度を高める上で、根底で大事になる要素が企業カルチャーである。

企業カルチャーは一朝一夕でできるものではない。日々のビジネス活動の積み上げ、行動そのものがカルチャーである。その構成要素として、企業が掲げるミッション（使命）やバリュー（価値観）といったものが、経営から現場まで浸透しているかが大事になる。ITツールの選定においても、自社のミッションを実現する上で必要なものなのかどうか、そのITツールを使うことでバリューを体現できるのか、情報システム担当が、経営と連携してITツールの導入を推進できているのかがポイントである。そして古いシステムや慣習にとらわれず、目的達成のために新しいITツールに触れ、トライアンドエラーを繰り返していく企業カルチャーを醸成できれば、従業員満足度の高いIT環境ができるはずだ。情報システム担当がミッションやバリューを大事にし、その実現に向けて自社のIT環境を整備することができれば、Mac導入もそれほど難しい課題とはならないだろう。